

高力価スタチンで糖尿病発症のリスクがより高まる

心臓血管病の二次予防薬として用いられるスタチンについて、高力価スタチンと低力価スタチンによる糖尿病の新規発生リスクを比較検討した。

試験データはカナダの6州および英国、米国の国際データベースのものを扱い、対象者は1997年から2011年の間に、新規にスタチン治療を開始した40歳以上の患者136,966人であった。これらの患者について、コホート内症例対照分析により高力価スタチン使用患者と低力価スタチン使用患者の糖尿病発症を比較した。分析の結果、スタチン使用開始2年以内の糖尿病の新規発症率は、高力価スタチンのほうが低力価スタチンと比べて、有意に高かった（1.15倍）。期間別にみると4カ月以下の使用で1.26倍と最も高かった。

以上より、心臓血管病の二次予防としての高力価スタチンは、低力価スタチンと比べて糖尿病の新規発症リスクを高めることが示唆された。臨床医は二次予防として高力価スタチンを使用する場合はこのリスクを考慮すべきである。

出典：British Medical Journal. 2014; 348: g3244